

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 中村 英代

研究課題		セルフヘルプ・グループの社会学
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>セルフヘルプ・グループとは、同じ問題を抱える者同士が集まり、交流を通して相互に支え合い、問題解決をはかる自助活動を指す。当事者同士の支え合いの共同体であり、専門家が主導することはない。こうしたセルフヘルプ・グループは社会学の研究対象とされ、インタビューや参与観察に基づく実証研究が行われている。しかし国内では、セルフヘルプ・グループを対象とした国際的・学際的な先行諸研究が何をどこまで明らかにしているのか、先行研究にどのような新たな知見を加えたのが不明確なまま、単発で実証研究が行われている現状もある。</p> <p>そこで本研究では、まず第1に、国内外のセルフヘルプ・グループ研究を網羅的にレビューし、これまでの研究の成果と到達点を明らかにする。第2に、これまでの研究を踏まえた上で、今後どのような研究が必要かを考察していく。</p>
	研究の結果	<p>本年度は、科学研究費基盤 C (研究代表：中村英代) とも関連づけながら、薬物依存症からの回復支援施設 (DARC) と薬物依存からの回復を目指す共同体 (Narcotics Anonymous) のフィールドワークの結果のデータ分析を行った。そして、依存症との関連から、現代社会とそこを生きる自己の在り方について考察し、次の成果を得た。</p> <p>2018年度は1冊の共著の刊行を行った。その他、研究テーマに関する招聘講演を2件行った。また、本研究の成果として現在、単著を執筆中である。</p>
	研究の考察・反省	<p>12ステップ・グループについての考察は進んだ。アウトリーチ活動として招聘講義などを通じて研究成果を社会に還元することもできた。</p> <p>反省点としては、予定していた単著『(仮) 依存症と資本主義』(光文社) の執筆が遅れている点が挙げられる。次年度の課題としたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究成果物】 論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村英代, 2018「私利私欲を手放し、匿名の自己を生きる—12 ステップ・グループと依存症からの回復」小林多寿子・浅野智彦編, 2018『自己語りの社会学—ライフストーリー・問題経験・当事者研究』新曜社: 178-201. <p>【研究発表】 招聘講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村英代, 2019「コントロールを手放す—変えられないものを変えようとし続ける私たち」『こまば当事者カレッジ 2018 年度冬期コース 生きづらさを考える』東京大学, 2019年3月. ・中村英代, 2019「依存症への臨床社会学からのアプローチ」大阪大学, 2019年1月.